

漁業経営の強化・ 改善に取り組んだ 事例紹介

令和2年3月

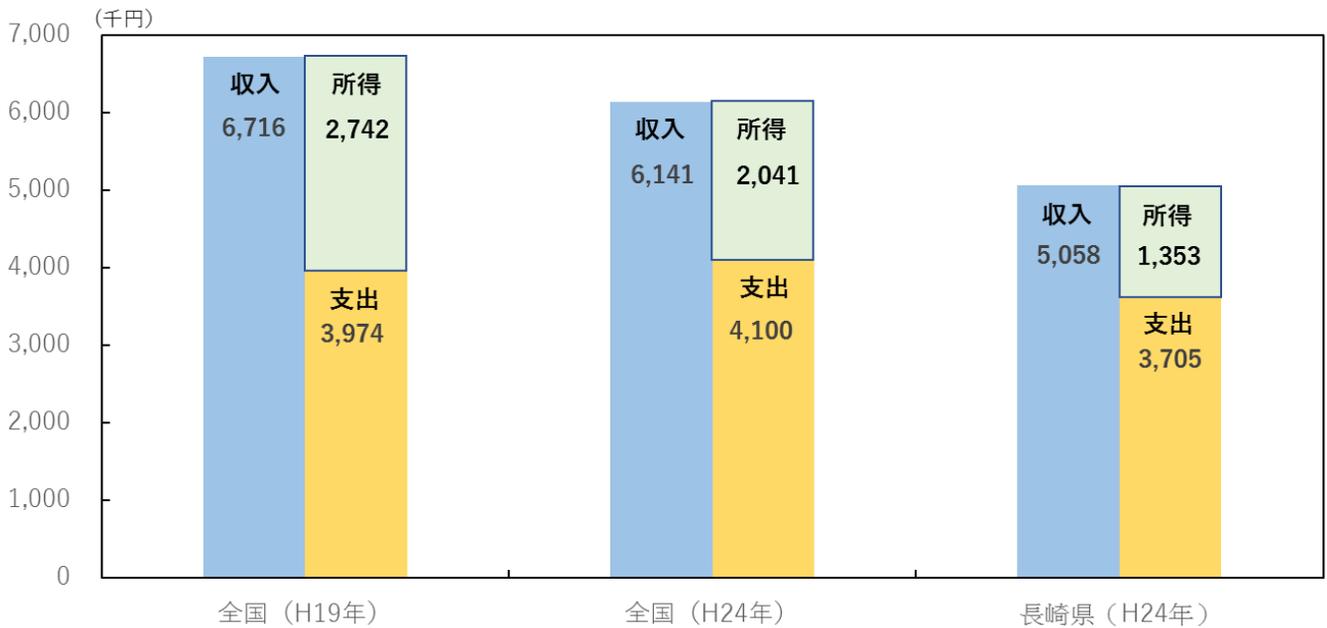
長崎県水産業経営支援協議会

〔事務局：長崎県水産部 水産経営課〕

長崎県の漁業の概況

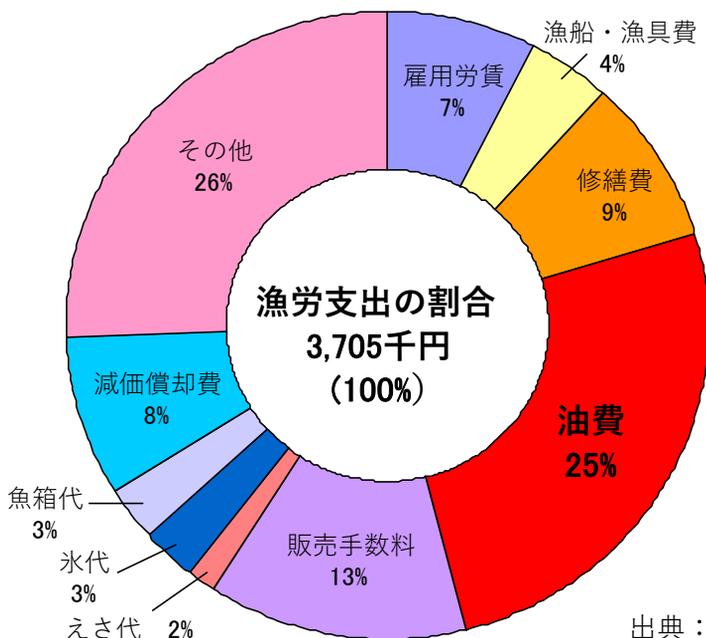
長崎県の漁業は、水産資源の減少や魚価安、経費の高騰などにより漁業所得は減少傾向にあり、漁業経営は厳しい状況にあります。

◆ 沿岸漁家の漁業所得・収支の状況



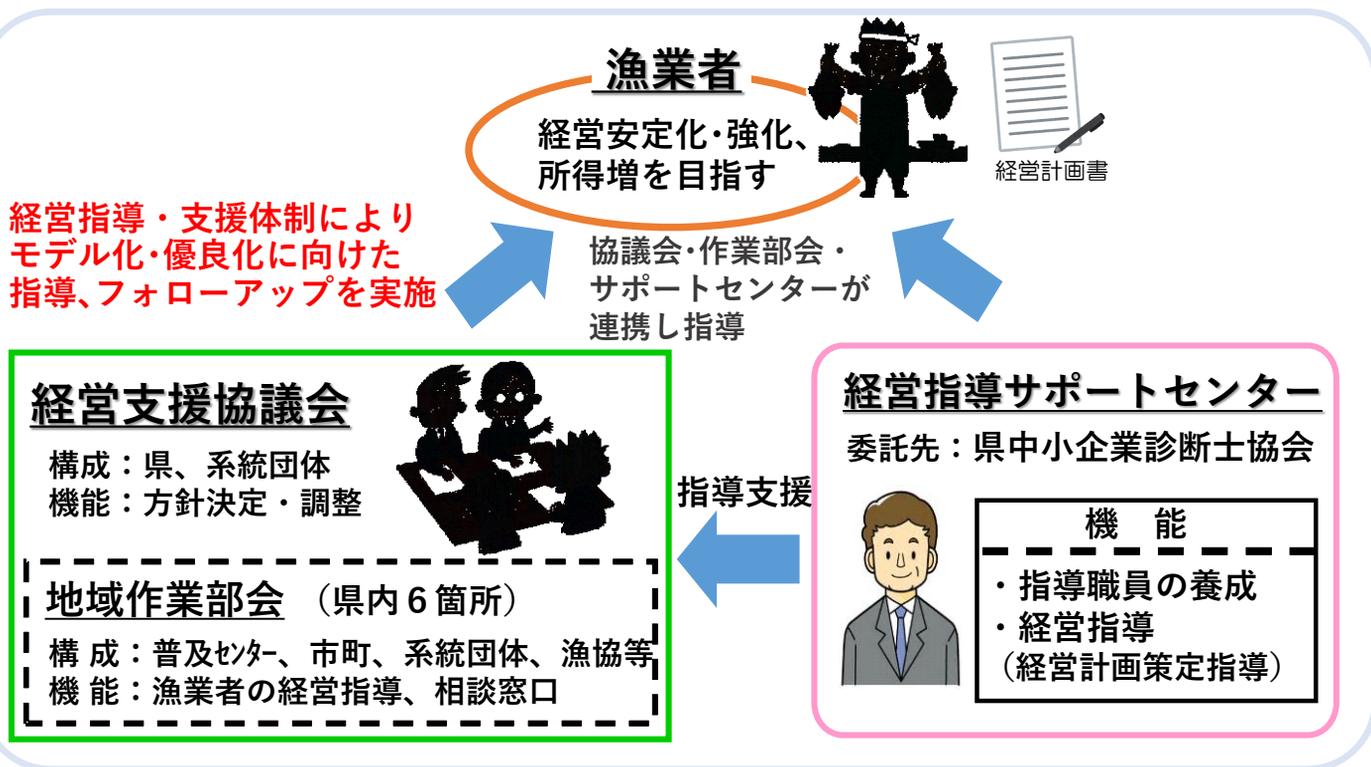
出典：国調査、県調査

◆ 長崎県の漁業支出（経費）の構造

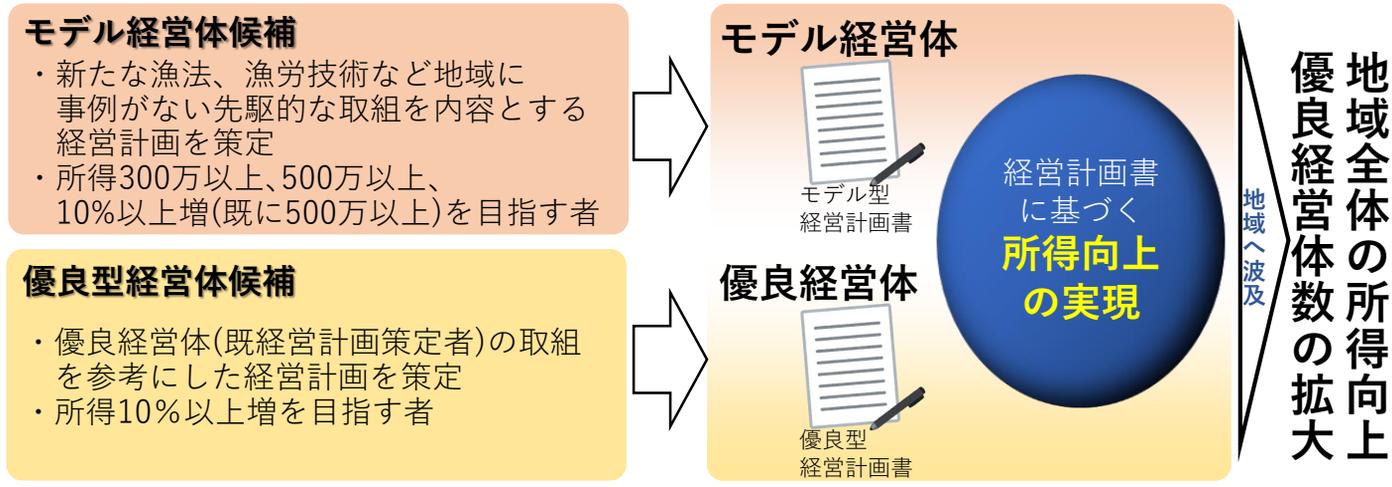


出典：県調査

経営指導の仕組み



経営支援の仕組み



経営改善に興味を持つ経営体 (将来候補)

【経営塾】 意識醸成・レベルUP!

- ① 経営に明るい漁家育成講座
・簿記会計、生涯設計等の研修
- ② 浜の経営リーダー育成講座
・地域リーダーを核とし、浜の経営安定を目指すグループ研修等
- ③ 経営自立集中講座
・経営感覚の醸成
- ④ 水産アカデミー研修
・専門性を高める集中講座等

【新水産業経営力強化事業】 (補助)

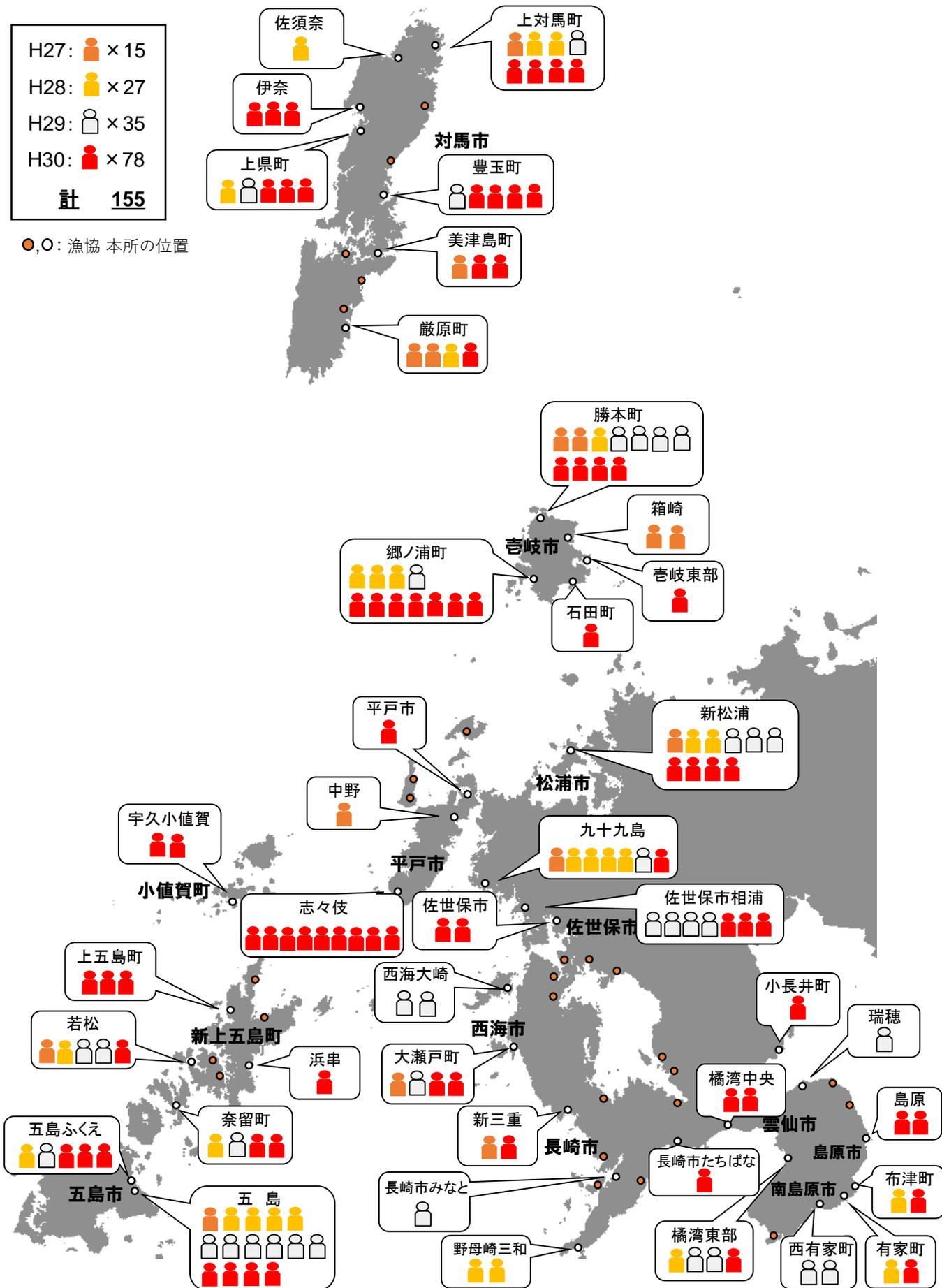
◆ 経営計画書に基づく所得向上の取組に必要な機器類の導入を支援 (要件あり)

- ① モデル経営体育成事業
補助率 単独：県1/3 (別途、市町1/6以上)
グループ：県1/2 (別途、市町1/6以上)
- ② 優良経営体育成事業
補助率 単独：県1/6 (別途、市町1/6以上)
グループ：県1/3 (別途、市町1/6以上)

経営計画 策定状況 (R1年3月末時点)

H27:	 × 15
H28:	 × 27
H29:	 × 35
H30:	 × 78
計	155

●,○: 漁協 本所の位置



漁業経営の強化・改善に取り組んだ事例

〔漁船漁業、養殖業〕

No.	地区	漁業種類	取組の概要	キーワード
1	県央	タコつば 延縄	・潮流計の整備による操業効率化 ・雑魚かごの導入	漁労機器の近代化
2		固定式刺網	・魚種に合わせた操業体制の確立 ・機関換装による操業日数の増加	操業体制の安定化
3	県南	ワカメ養殖 ワカメ加工	・加工施設の整備による効率化 ・加工期間の延長による製品の計画生産	加工期間の延長
4		ヒトエグサ養殖 ヒトエグサ加工	・加工機器の高度衛生化 ・加工期間の延長による製品の計画生産	加工機器の近代化
5	県北	イワシ船曳網 煮干加工	・加工機器の整備による加工作業の効率化 ・漁獲回数増大による水揚向上	加工機器の近代化 漁獲機会の増加
6		小型定置網	・製氷機の整備による鮮度保持対策 ・観光業と漁業の両立	魚価の向上 経営の多角化
7		まき網 煮干加工	・加工製造ラインのオートメーション化 ・加工施設の高度衛生化	加工機器の近代化
8	五島	一本釣 曳縄	・ソナーの整備による操業効率化 ・操業時間の増大による水揚向上	探索機器の近代化
9		一本釣 曳縄	・ソナーの整備による操業効率化 ・出荷経路の見直し	探索機器の近代化
10		一本釣 曳縄	・ソナーの整備による操業効率化 ・操業時間の増大による水揚向上	探索機器の近代化
11		一本釣 曳縄	・ソナーの整備による操業効率化 ・操業時間の増大による水揚向上	探索機器の近代化
12	上五島	大型定置網 小型定置網	・活魚運搬船の運航 ・雑魚の餌料向け販売	活魚運搬業の開始 未利用資源の活用
13		たこつば 曳縄等	・漁閑期に新たにぬたうなぎかご漁業を導入 ・複合経営による経営の安定化	新たな漁法の導入
14	壱岐	一本釣	・マグロに代わりイカ釣りを導入 ・メダイ釣りの操業効率化	新たな漁法の導入
15		一本釣	・マグロに代わりイカ釣りを導入 ・自動イカ釣り機の整備による操業効率化	新たな漁法の導入
16	対馬	アナゴかご	・冬季のブリ延縄漁業の導入 ・アナゴ漁獲圧の軽減	新たな漁法の導入 複数漁法の経営
17		延縄 一本釣	・潮流計の整備による操業効率化	新たな漁法の導入
18		延縄	・漁場の海底地形の把握による操業効率化	探索機器の近代化 漁場情報の共有
19		一本釣 曳縄等	・ウマヅラハギすくい網漁業の導入 ・漁船の大型化による操業効率化	新たな漁法の導入

〔雇用型漁業〕 ※ 雇用型漁業育成支援事業による取組の紹介

No.	地区	経営体	漁業種類	取組の概要
20	五島	五島市雇用型漁業ビジネス モデル構築推進・普及会議	大型定置	・定置網の改良 (運動場の嵩上げや箱網の容積拡大) ・観光定置や筏釣り体験の導入
21	県南	雲仙市雇用型漁業ビジネス モデル構築推進・普及会議	中小型まき網	・小型定置の開始による複合経営 ・加工品製造、販売体制の強化 ・漁師体験プログラムの拡充

1. たこつぼ、はえ縄漁業者の操業効率化等による経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	たこつぼ、クエはえ縄、タチウオひき縄、さし網
漁船規模等	6. 4トン（1名体制）
操業海域	五島灘、五島周辺
対象魚種	タコ、クエ、タチウオ、コウイカ等



2. 経営指導で明らかになった課題

①	操業体制	クエ漁場、たこつぼ漁場の潮流を把握するための潮待ちに時間がかかっている
②	生産体制	たこつぼ操業と並行して操業可能な漁法の導入



経営計画書

課題の解決に向けた経営計画の取組

- ① 潮流計の導入による潮待ち時間の短縮
- ② 共同漁業権漁場での雑魚かごの導入

潮流計の整備について
市・県から補助



3. これまでの成果

- ・潮流計の導入により、漁具の迅速かつ正確な投入が可能になった
- ・大潮時にも操業可能な日があることがわかり、出漁日数を増加させることができた
- ・雑魚かごの導入により、不安定なたこつぼの水揚を補うことができた
〔漁獲量 10%向上、漁獲金額 26%向上〕

経営者の声

潮流計を設置したことで、潮流が迅速かつ正確にわかり、漁具の的確な敷設、潮待ち時間の減少など効率的な操業ができるようになった。

2. 刺網漁業者の対象魚種見直し等による経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	固定式刺網漁業
漁船規模等	6.4トン（2名体制）
操業海域	五島灘
対象魚種	カマス主体



2. 経営指導で明らかになった課題

①	操業体制	<ul style="list-style-type: none">・36歳で親の漁船に乗船して39歳で独立したが、経験が不足している・イセエビ禁漁期には漁協の自主規制によりカマス刺網以外の刺網が制限されており、思うように操業できない
②	生産体制	漁船のエンジンが不調で、操業日数を増やすことができない



経営計画書

課題の解決に向けた経営計画の取組

- ① イセエビ禁漁期の魚類刺網の漁協自主規制の解除に合わせ、様々な魚種を狙った刺網を開始する
- ② 機関換装により燃油使用量・修理費の削減と安定操業を図る

機関換装について国庫補助（TPP対策関連事業）

3. これまでの成果

- ・経営計画を策定し、目標とする水揚げを設定したことで日々の操業に明確な目標ができるようになった
- ・漁具をそろえて、季節に合わせて様々な魚種を刺網で漁獲できるようになった（ヒラメ・イサキ・タイ・カマス等）
- ・機関換装により安定して操業できるようになった
〔売上高36%向上〕

経営者の声

燃油価格の高騰は予想していなかったが、状況を見ながら対象魚種を選ぶことができるようになった。今後はブローアを改良して活魚での出荷量を増やしたい。

3. ワカメ養殖漁業者の加工施設整備による経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	ワカメ養殖・加工、たこつぼ等
漁船規模等	4. 6トン他
操業海域	島原半島南部
対象魚種	ワカメ、マダコ



2. 経営指導で明らかになった課題

①	ワカメの加工体制	加工場が手狭で、ボイル、塩漬け、芯抜き、袋詰め作業を同時に進めることができず、大量生産できない
②	ワカメの養殖生産	養殖期間中は加工できる量のワカメしか収穫できず、養殖規模の拡大ができない



経営計画書

課題の解決に向けた経営計画の取組

- ① 加工場の新設により広い作業場を確保し、加工作業を効率化させる
- ② 冷凍庫の整備により塩蔵ワカメをストックし、加工期間を延ばして製品の計画生産に取り組む

加工場の新設、冷凍庫の整備について
市・県から補助

3. これまでの成果

- ・作業スペースが広くなり、ボイル・塩漬け・芯抜き・袋詰め工程を同時に進めることができ、収穫から製品袋詰めまでの作業期間を10日間から8日間に削減することができた
- ・ワカメの養殖規模の拡大につながった(養殖本数70→80本)
- ・塩蔵ワカメを冷凍庫にストックすることで、加工期間を3ヶ月延長することができ、計画生産を実現することができた
〔売上高 43%向上〕

経営者の声

加工期間を延ばすことで、売上を増やすことができました。今後は、年間を通して加工や出荷ができるよう取組みを強化し所得を向上させたい。

4. ヒトエグサ養殖・加工業者の加工施設整備による経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	ヒトエグサ（アオサ）養殖・加工
漁船規模等	0.7トン
操業海域	島原半島南部
対象魚種	ヒトエグサ



2. 経営指導で明らかになった課題

①	ヒトエグサの加工体制	加工作業に時間をとられ、一度に大量生産できないため大口の注文に応じきれっていない
②	養殖体制の見直し	ヒトエグサの収穫に時間を割けないため養殖規模を拡大することができない

課題の解決に向けた経営計画の取組

- ① パック留め具の非金属化と異物検査体制を整備して受注先のニーズに対応した加工体制を整える
- ② 冷凍庫を増設し収穫したヒトエグサをストックすることで周年の加工を実現する

パック機、金属探知機、定量充填機、脱水機、冷凍庫の整備について市・県から補助



経営計画書

3. これまでの成果

- ・ 冷凍庫や脱水機の整備により収穫したヒトエグサを素早く凍結してストックしておき、高品質な製品を受注時期に応じて適宜加工することが可能となった〔漁業所得10%向上〕
- ・ 金属探知機の導入とパックの留め具をプラスチックに変更したことにより、製品の信頼性が向上した
- ・ ヒトエグサの養殖網を250枚から300枚に拡大することができた

経営者の声

充填機などの整備により、加工作業が楽にできるようになり、経費の削減と養殖規模の拡大が実現できた。

5. 船びき網・敷網漁業と煮干加工業者の経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	船びき網、敷網、煮干加工
漁船規模等	12トン、7.6トン
操業海域	伊万里湾
対象魚種	カタクチイワシ



2. 経営指導で明らかになった課題

①	生産体制	事業主が漁労と加工を兼務しており、漁獲した原料の加工作業が終了するまで次の漁労作業ができない
②	流通対策	系統販売を主力としつつも、収益性が高い直販事業の規模が小さい

課題の解決に向けた経営計画の取組

- ① 煮干製造ラインを改善して、事業主の漁労作業への専従時間を増やし、漁獲物・製品の生産拡大を図る
- ② 製品アイテムの充実による販売促進



経営計画書

オートフィーダーシステム、ラベルプリンターの整備
について市・県から補助

3. これまでの成果

- ・ 煮干加工の効率化により事業主が漁労作業に専念できるようになり、操業回数を増加させることができた
- ・ 道の駅等への売上増加と新たな販路開拓により売上を大幅に伸ばすことができた [売上高 95%向上]
- ・ 煮干は水産加工振興祭で農林水産大臣賞を受賞するなど高い評価を得ている

経営者の声

加工作業の機械化により漁労作業に専念できるようになり、原料確保に不安がなくなった。また、不漁時でも魚市場から原料を調達し、加工を続けることで雇用が安定してきた。

6. 定置網漁業者の経営多角化による経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	小型定置網 3ヶ統
漁船規模等	19t他
操業海域	平戸市 生月瀬戸
対象魚種	イカ類、イサキ、シイラ等



2. 経営指導・ビジネスモデル計画の作成過程で明らかになった課題

① 操業体制	作業船の幅が狭く、盛漁期（9～11月）における操業回数が制限
② 流通対策	主要魚種であるシイラの魚価が安い
③ 地域活性化	収益向上に繋がる観光業と漁業の両立が必要
④ 雇用体制	従業員の確保が困難

課題の解決に向けたビジネスモデル計画の取組

- ① 新船導入による船上作業の効率化と操業回数の増加を図る
- ② フレーク状アイス製氷機の導入による漁獲物の鮮度保持対策を行う
- ③ 漁閑期に市やJTBとの連携による世界遺産関連地の周遊と観光定置を企画する
- ④ 休日や賃金の増加など従業員の処遇改善と新規雇用に取り組む

フレーク状アイス製氷機（県補助）
及び新船（国補助）の導入等

3. これまでの成果

- ・ 操業回数の増加と作業の効率化により漁獲量が6割増加した
- ・ 鮮度保持対策により、シイラの単価が2割以上向上した
〔漁獲金額 37%向上〕
- ・ 観光客を集客できたことで地域経済への貢献に繋がっている
- ・ 従業員の賃金アップ、休日の増加、社会保険の加入により雇用条件を改善した

経営者の声

水揚量や魚価の向上により、付加生産額を高められ、副次的には従業員に対する待遇を改善して、経営基盤を強化できた。また、観光客を受入れるようになったことから、多角的事業も展開できるようになった。

7. まき網漁業と煮干加工漁業者の経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	まき網、煮干加工
漁船規模等	8. 5トン 他4隻
操業海域	長崎県北部海域
対象魚種	カタクチイワシ



2. 経営指導で明らかになった課題

① 生産体制	<ul style="list-style-type: none">・煮釜が小さいことと、煮干加工の各機器が連結していないことによる作業の長時間化と品質低下・加工しきれない余剰原料（餌料向け出荷）の発生による収益性の低下
② 設備	<ul style="list-style-type: none">・加工作業が天候の影響を受けやすい屋外加工場であり、衛生面からも改善が必要

課題の解決に向けた経営計画の取組

- 
- ① 加工能力の増強と製造ラインのオートメーション化により生産効率を向上させ、品質の向上を図るとともに煮干生産量と売上高を増やす
 - ② 上屋を建設し、全天候型で衛生的な加工施設へ改善する

煮釜の改良、オートメーション化、上屋の整備について市・県から補助

3. これまでの成果

- ・煮干加工能力の向上により、加工生産量が増え、売上高を伸ばすことができた〔売上高 72%増加〕
- ・天候に左右されず加工できるようになり、衛生面も改善され、製品の品質が向上した
- ・収益の増加により社会保険加入、倒産防止共済加入、年末賞与支給を実施し、雇用環境が改善できた

経営者の声

加工場の生産効率向上や衛生環境が改善され、煮干生産量の増加や品質向上により収益が上がった。社会保険の加入など雇用環境の改善や、会社の法人化ができた。

8. 一本釣漁業者の探索時間の短縮による経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	一本釣、曳縄漁業
漁船規模等	4. 6トン（1名体制）
操業海域	五島列島周辺の男女群島、鳥島等
対象魚種	チカメキントキ、ハガツオ、メダイ等



2. 経営指導で明らかになった課題

① 操業体制	魚群探知機で魚群探索を行っているため、探索に時間を要しているとともに、魚群の位置、大きさを正確に把握できていない
② 流通対策	島外出荷が主体のため、出荷経費が高んでいる

課題の解決に向けた経営計画の取組

- ① 漁業用ソナーを導入して魚群探索にかかる時間を短縮し、操業時間を延ばすことで漁獲効率を向上させる
- ② 地元魚市や島内観光業者への販路を開拓するほか、漁獲物の取扱技術を向上させ魚価の高い市場へ出荷する



経営計画書

漁業用ソナーの整備について
市・県から補助

3. これまでの成果

- ・ソナーの導入により探索時間を1割程度短縮し、その分を操業に充て操業時間を増やすことができた
- ・水揚と経費を考慮した経営に取り組み、所得率が向上した
〔所得率 26%⇒40%〕
- ・同地区の漁業者へ取組が周知され、経営計画策定の希望者が増加している

経営者の声

効果的な経営改善を行うためには、経理を担当している妻に経営指導の面談から参加してもらうことが大事だと考えている。

ソナーの導入後は、魚群発見が早くなり、魚群の移動状況も分かるようになったので、1回あたりの水揚が増えたと感じています。

9. 一本釣漁業者の探索時間の短縮による経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	一本釣、曳縄漁業
漁船規模等	4. 8トン（2名体制）
操業海域	五島列島奈留島西沖の天然礁や人工魚礁
対象魚種	ケンサキイカ、タチウオ、イサキ、マダイ等



2. 経営指導で明らかになった課題

①	操業体制	漁場では魚群探知機による探索を頻繁に繰り返すため、探索に時間を要している
②	流通対策	一部の魚種では地元出荷による輸送コストの低減が必要

課題の解決に向けた経営計画の取組

- ① 漁業用ソナーを導入して魚群探索にかける時間を短縮し、操業時間を延ばすことで漁獲効率を向上させる
- ② ケンサキイカ、ハガツオは地元漁協や地元魚市への出荷を増やし、出荷経費を削減する



経営計画書

漁業用ソナーの整備について
市・県から補助

3. これまでの成果

- ・ 漁業用ソナーの導入により魚群探索を効率化することができた
- ・ これまで殆どの魚種を島外出荷していたが、出荷先市場の休場日は地元漁協に全ての魚種を出荷するようになり、出荷経費の削減を行うなど、コスト意識が高まった
- ・ 経営改善の取組みを機に、父親から事業承継し、1人操業体制を確立した

経営者の声

ソナー導入により優良なポイントが発見できるようになり、海の中の様子が分かるようになった。
少ない経費で多くの収入を上げる意識が強まった。

10. 一本釣漁業者の探索時間の短縮による経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	一本釣・曳縄漁業
漁船規模等	6. 1トン（1名体制）
操業海域	五島の男女群島、鳥島等
対象魚種	チカメキントキ、メダイ、マグロ類



2. 経営指導で明らかになった課題

① 漁業を取り巻く環境	漁場が遠方で往復の航行距離が長く、経費に占める燃油代の割合が大きい
② 操業体制	魚探による自船下の範囲の魚群探索であることから、探索にかかる航行と時間を要し、操業が効率的に行えていない
③ 出荷経費	離島に位置するため島外への出荷がメインになり、本土地区と比較すると出荷経費が高む



経営計画書

課題の解決に向けた経営計画の取組

- ① 漁場までの往路を減速航行することで燃油使用量の低減を図る
- ② ソナーを整備して自船周辺の探索を容易にし、操業効率を改善する
- ③ 地元魚市出荷等の島内販路の開拓により、出荷経費の削減を図る

ソナーの整備について
市・県から補助

3. これまでの成果

- ・ 漁場までの往路減速航行と漁業用ソナー導入による探索航行距離の短縮で、出漁あたりの燃油消費量の縮減ができた
- ・ 漁業用ソナー導入で魚群探索時間の短縮と、漁具を下ろす際の成功率が上がり操業の効率が良くなったと感じる

〔漁業所得12%向上〕

経営者の声

経営計画書を作成して良かった。効果を感じている。
ソナーの導入で魚群の早期発見が可能となり、見つけた魚群を追跡できるので操業効率が上がり、1航海あたりの水揚が増えたと感じている。

11. 一本釣漁業者の探索時間の短縮による経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	一本釣・曳縄漁業
漁船規模等	5. 9トン（1名体制）
操業海域	五島の男女群島、鳥島等
対象魚種	チカメキントキ、メダイ、ハガツオ等



2. 経営指導で明らかになった課題

①	漁業を取り巻く環境	漁場が遠方で往復の航行距離が長く、経費に占める燃油代の割合が大きい
②	操業体制	魚探による自船下の範囲の魚群探索であることから、探索にかかる航行と時間を要し、操業が効率的に行えていない
③	出荷経費	離島に位置するため島外への出荷がメインになり、本土地区と比較すると出荷経費が高む



経営計画書

課題の解決に向けた経営計画の取組

- ① 漁場までの往路を減速航行することで燃油使用量の低減を図る
- ② 漁業用ソナーを整備して自船周辺の探索を容易にし、操業効率を改善することで、水揚げ増と燃油使用量の低減を図る
- ③ 地元魚市出荷等の島内販路の開拓により、出荷経費の削減を図る

県・市の補助事業を活用して
漁業用ソナーを整備

3. これまでの成果

- ・ 漁場までの往路減速航行と漁業用ソナー導入による探索航行距離の短縮で、出漁あたりの燃油消費量の縮減ができた
- ・ ソナー導入で魚群探索時間が短縮され、飛躍的に操業効率が向上した
〔漁業所得44%向上〕

経営者の声

ソナーを導入して魚群を見つけやすくなった。見つけた魚群を見失うこともなくなり、同じ時間での漁獲量が増えた。
経営計画書を作成して、経費支出が多いことに気づくことができた。

12. 定置網漁業の活魚運搬船・冷凍庫の設備導入による経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	定置網（大型・小型）
漁船規模等	作業船19トン ほか5隻 保冷車、冷凍庫など
操業海域	上五島 若松地区
対象魚種	アジ：周年 イサキ・ヤリイカ：春 ブリ：冬



2. 経営指導で明らかになった課題

① 出荷体制	大量時にはフェリー便に出荷が間に合わず、また活魚はチャーター船で出荷しているため出荷経費が高んでいる
② 未利用魚	大量に漁獲される雑魚を利用できていない



経営計画書

課題の解決に向けた経営計画の取組

- ① 新たな輸送手段として、自社の活魚運搬船を運航する
- ② 廃棄していた雑魚を冷凍エサとして販売する



活魚運搬船
冷凍庫
の導入



3. これまでの成果

- ・ 運搬船で他の生産者の漁獲物も運搬することで収益が増加した
- ・ 未利用魚の延縄用餌料としての冷凍販売は計画より減少したが、養殖用餌料として販売できたことで、収益の増加につながった〔償却前利益 210%向上〕

経営者の声

活魚運搬船は想定外の新しいビジネスにつながり、会社の経営状態も安定化している。これにより、定置網の不漁をカバーできたことは大きいですが、人員が不足しているため、雇用対策にも力を入れていきたい。

13. たこつぼ・曳縄漁業者の新漁法導入による経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	たこつぼ、曳縄（ヨコワ・タチウオ等） 雑魚かご漁業
漁船規模等	6. 1トン（1名体制）
操業海域	上五島近海
対象魚種	マダコ、クロマグロ、タチウオ、 ヌタウナギ等



2. 経営指導で明らかになった課題

①	既存漁業の漁獲量が減少	安定しない漁模様に対応するため、別の漁法の導入が必要
②	秋季が漁閑期で収入が少ない	秋季に収益が見込める漁法の導入が必要



経営計画書

課題の解決に向けた経営計画の取組

- ① 漁閑期にヌタウナギかご漁業を新たに導入すること
- ② により、収益の安定と向上を目指す

漁船導入の他、
デレッキ、潮流計、漁具の整備に
ついて町・県から補助



3. これまでの成果

- ・ 漁閑期である秋季や漁がない時期にヌタウナギかご漁業に取り組んだことで、全体の水揚額の約2割をカバーすることができ、所得を安定させることができた
- ・ 所得も取組前と比較して増加させることができた

経営者の声

ヌタウナギかご漁業は新たな取組として試験的に操業を開始し確立に目処が立ったことから大型船の購入や設備投資を実施した。しかし、漁獲量は確保できるものの販売先が不安定であり、予定していた周年操業ができていない状況にある。今後は国内の出荷先を開拓していきたい。

14. 一本釣り漁業者の新漁法導入による経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	一本釣り（マグロ・メダイ）
漁船規模等	4. 8トン（2名体制）
操業海域	壱岐近海
対象魚種	マグロ、メダイ、ヒラス他



2. 経営指導で明らかになった課題

①	マグロの漁獲量減	マグロの漁獲に頼らない新たな漁業種類の導入が必要
②	釣り漁業の非効率性	電動リール等の機器類を導入し、操業の効率化を図る

課題の解決に向けた経営計画の取組

- ① マグロ漁業に代えてイカ釣り漁業を導入し、活イカ出荷することにより安定した水揚げを確保する
- ② 電動リールを導入し、主にメダイ釣りの操業効率化を図ることで、水揚げの増加を図る

自動イカ釣り機、電動リールの整備について市・県から補助



3. これまでの成果

- ・ 漁獲制限がかかるマグロや近年水揚げが減少しているメダイの代わりにイカ釣りを導入したことで、水揚げの減少を補うことができた
- ・ 電動リールの導入により操業の効率化が図られ、メダイの水揚げが増加した
- ・ 周りの漁業者への波及効果も大きく、地域の漁業者も電動リールを導入して水揚げが向上した

経営者の声

マグロやメダイの水揚げ減少分を夏場のケンサキイカ釣りで補えたので助かった。

また、電動リールや自動イカ釣り機を導入したことで、漁模様による漁法の選択ができるようになり漁業の幅が広がった。

15. 一本釣り漁業者の新漁法導入による経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	一本釣り
漁船規模等	4. 4トン
操業海域	壱岐近海
対象魚種	マグロ、ブリ、ケンサキイカ他



2. 経営指導で明らかになった課題

①	漁業を取り巻く環境	マグロの漁獲規制により操業機会が減少していることから、マグロに頼らない新たな漁業種類の導入が必要
②	操業体制	現在操業しているイカ釣り漁業は手釣り操業であるため操業効率が悪い

課題の解決に向けた経営計画の取組

① 自動イカ釣り機の導入により、夏場のケンサキイカ釣りを効率化させるとともに冬場のスルメイカ釣りを開始

② グループによるケンサキイカの活魚出荷及び大型ケンサキイカのトレー出荷により単価向上を図る



経営計画書

自動イカ釣り機の整備について
市・県から補助

3. これまでの成果

- ・自動イカ釣り機の導入により、マグロ釣り主体からイカ釣り主体へと漁業種類の転換が図られ、マグロに頼らない経営が可能となった
- ・大型ケンサキイカのトレー出荷により単価向上が図られた
- ・水揚と経費を考慮した経営に取り組み、漁業所得が向上した〔漁業所得20%向上〕

経営者の声

マグロの漁獲規制が進む中、イカ釣り漁業主体の操業形態に切り替えられたのはよかった。結果的に経費の削減が進み、所得が向上した。また、計画に実際に取り組んでみると新たな課題も見えてきたので、さらなる経営の安定化に向けて改善していきたい。

17. アカムツはえ縄漁業者の操業効率化による経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	アカムツはえ縄、一本釣り等
漁船規模等	6. 6 t (1名体制)
操業海域	対馬北西沖
対象魚種	アカムツ、サバ他



2. 経営指導で明らかになった課題

①	潮流計の未整備	僚船から潮流を聞き取っているため、魚の活性が高まるタイミングがリアルタイムでつかめず、操業が非効率
②	操業時間の制約	潮流把握のため僚船に操業時間を合わせざるを得ず、縄入回数・操業時間が制限される

課題の解決に向けた経営計画の取組

- ① 潮流計を整備することで、魚の活性が高まるタイミングで縄入れできるようになる
- ② 操業時間の制約がなくなることで、縄入れ回数を増加させ漁獲機会を増やす



経営計画書

潮流計の整備について
市・県から補助



潮流計ディスプレイ

3. これまでの成果

- ・潮流計を導入したことで、縄入れに適した潮流の見極めが可能となり効率が向上し、水揚額・収益性が向上した
- ・操業時間の制約がなくなり、競合船のいない時間帯に操業することで、漁獲効率が上がった [水揚額 計画の20%向上]

経営者の声

アカムツの操業体制を改善できたのが大きいですが、そのほかにも潮流計の効果でサバやサワラといった多くの魚種も効率的に獲れるようになって良かった。今後も来遊状況に応じて獲る魚を変えながら、所得を向上させていきたい。

18. アマダイ延縄漁業者の操業効率化による経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	アマダイ延縄、ブリ曳縄
漁船規模等	父：8.5t 息子：8.5tの2隻操業
操業海域	対馬北部海域
対象魚種	アマダイ、レンコダイ、ブリ等



2. 経営指導で明らかになった課題

①	詳細な海底地形が把握できない	親子2隻で操業しているが、漁場の地形が複雑で、延縄の瀬切れによる喪失が多い
②	鮮度保持	漁船の貯氷能力が低く、紅王（アマダイ）やブリの鮮度保持に課題

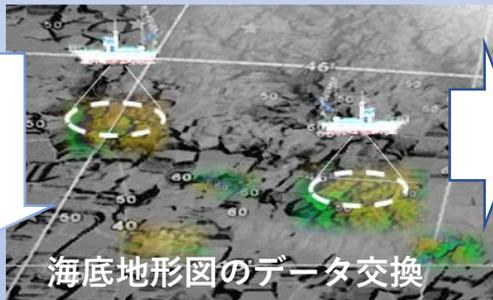
課題の解決に向けた経営計画の取組

- ① 延縄の瀬切れを減らすため、漁場の詳細な海底地形を把握する
- ② 鮮度保持のため保冷設備

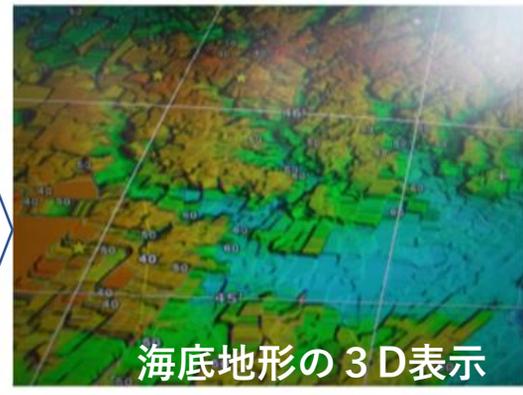


経営計画書

3D-GPSプロッター、
魚槽の保冷工事について市・県から補助



海底地形図のデータ交換



海底地形の3D表示

3. これまでの成果

- ・ 海底地形が立体的に把握できることで、瀬切れによる縄の喪失を減らすことができるようになった [縄繰経費12%削減]
- ・ 親子でデータ交換することにより、漁場データを効率的に収集することができるようになった [漁業所得30%向上]

経営者の声

今までは経験や感覚により操業していたが、漁場情報をデータ化することができた。これまでの経験と合わせてデータを活用し、さらなる操業の効率化を図りたい。

19. 一本釣り・曳縄漁業者の漁船改良・魚種転換による経営改善

1. 漁業経営の概要

漁業種類	一本釣り・曳縄漁業
漁船規模等	4. 4 t
操業海域	対馬近海
対象魚種	メダイ、サバ、イカ、ヨコワ



2. 経営指導で明らかになった課題

①	水揚量が不安定	漁海況により対象魚種を選択し、通年で水揚を安定させる必要がある
②	単価向上の余地	蓄養生簀が2基しかなく、ブリ、サバなどの出荷調整や神経メ、朝メ出荷などを効率的に行うには設備不足である。
③	漁船の老朽化・トン数不足	漁船が小型かつ老朽化しており、操業日数の減少や漁獲物積載量の不足を招いている。

課題の解決に向けた経営計画の取組

- ① 漁船を大型化し、操業日数及び積載量を増加させるとともに、漁海況情報入手により対象魚種を最適化することで、水揚量を増加させる
- ③
- ② 生簀の増設により、出荷調整や神経メ、朝メ出荷などの単価向上の取組みを強化する



経営計画書

漁船（4. 9 t）及び付帯設備一式の整備について
国庫補助（TPP対策関連事業）

3. これまでの成果

- ・ 生簀の増設により、ブリ、サバの出荷調整や神経メ、朝メは計画通り実施でき、単価向上の効果を上げている
- ・ 計画時はヨコワの水揚額を全体の2、3割見込んでいたが、その後漁獲規制が始まり、計画2年目までは水揚不振が続いた
- ・ そこで代替漁法として、地区では操業隻数の少ないウマヅラハギすくい網に着手したところ好調で、直近年の水揚額・所得額は目標を上回った

経営者の声

ヨコワの漁獲規制により、計画初期は苦しいスタートだったが年ごと・季節ごとに獲れる魚をがむしゃらに獲る姿勢を貫き、何とか目標達成できた。今後は自身もまだまだ頑張りつつ、息子に自分の経験と精神を伝え、一人前に育てていきたい。

20. 五島市玉之浦地区定置網漁業ビジネスモデル計画

【策定:五島市雇成型漁業ビジネスモデル構築推進・普及会議】

背景

五島市における定置漁業は、一般漁業（まき網を除く）の水揚量4,729 t（※）の約46%（2,146 t）を占める基幹漁業であり、雇用の受皿としても大切な役割を担っている。

近年、資源減少、魚価安、燃油・資材高騰による事業利益の低下が進む中、経営改善を図るため、生産性の向上や多角的経営による事業収入向上、また経費削減の展開が求められている

課題

※H27農林水産統計

1. 水揚量の減少

- ・漁具の構造による中層遊泳魚の逸散
- ・漁網の劣化による漁獲能力の低下

2. 魚価対策

- ・蓄養筏の台数不足による
- ・活魚の品質低下（スレ等）
- ・活魚出荷量の限界

3. 経費率が高い

- ・漁網等の補修費
- ・漁船の保守管理費
- ・人件費 等の割合が高い

4. 地域との連携

- ・定置網漁業等を活用した地域振興と多角経営

5. 労働力の不足

- ・長期雇用を確保できない労働環境
- ・操業・網替え作業への支障



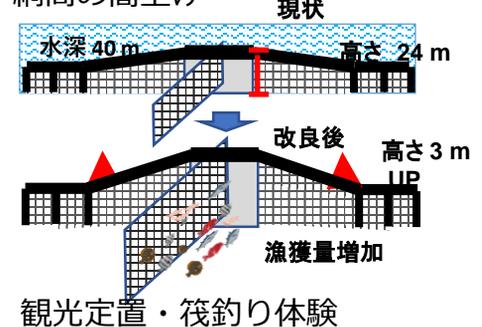
取組の方向性

「来遊資源を適宜・持続的に獲り、魚価を高める活魚出荷の拡大」をコンセプトに、経費も削減し、さらに観光定置等による多角経営を実践する、定置漁業の経営モデルを確立する。

計画内容

- ① 定置網の改良
 - ・運動場の網高の嵩上げや箱網の容積拡大
 - 水揚量の5%増加
- ② 活魚出荷の強化
 - 筏増設によるブリ等の出荷量3トン増加
- ③ 漁網の整備による補修作業日数の削減と経費節減
 - 年間操業日数の17日（10%）増加
 - 消耗品費の10%削減
- ④ 観光定置や筏釣り体験の導入
 - H29年120名
 - ~H31年172名の呼び込み
- ⑤ 雇用の確保・改善
 - 豊漁時の特別手当の支給
 - 長期雇用者の2名増員

網高の嵩上げ



～ 地域を牽引するビジネスモデルへ ～

- 収益性の向上
- 安定した経営体制の確立
- 労働環境改善と雇用の確保

KPI
(重要成果指標)

	基準年 (直近3年平均)	→	H31 (目標年)
○付加生産額 (営業利益・人件費・減価償却費)	13,401 千円	→	17,983 千円
○雇用者数	5 人	→	7 人

21. 雲仙市橘湾地区中小型まき網漁業ビジネスモデル計画

背景

【策定：雲仙市雇用型漁業ビジネスモデル構築推進・普及会議】

雲仙市橘湾地区において、中小型まき網漁業は、同地区の一般漁業における総水揚量2,989 tの約64%(1,907 t)を占める基幹産業(H29年度)。標記ビジネスモデル計画を実践する経営体が主対象魚種とするカタクチイワシの資源水準は低く、今後の漁獲高は不透明。安定した経営を維持していくため、複合的な漁業展開、加工・観光事業と組合せた多角的な経営に取組み、収益性の高いビジネスモデルを確立・実践していく必要がある。

課題



漁獲の安定確保

カタクチイワシのH29年度の資源水準は低位、動向は横ばい。今後の漁獲高は不透明。



付加価値の向上

脂イワシ（冬、春季）の煮干は通常と比べ価格が1/2、餌用で1/3に下落。定置網漁獲物は多種少量のため、低価格での取引。



漁業の魅力発信

世界文化遺産登録等、島原半島で観光客増の見込み。H28より取組む漁師体験は周知不十分で利用者少ない。施設や人的に受入れ体制不十分。



雇用の確保と改善

従業員の高齢化（約半数が60才以上）、加工・観光事業の拡充強化に向け、雇用の確保・増員、待遇改善等が必要。

取組の方向性

「まき網漁業を主体とした複合的な漁業の展開」「加工品製造、販売体制の整備・強化(カタクチイワシ製品開発)」「漁師体験プログラムの拡充(観光協会等との連携)」を組合せた多角的な経営に取組み、収益性向上及び雇用の確保等を目指す。

計画内容

①複合的な漁業の展開

- 脂イワシの時期に、まき網に加え小型定置網漁業等操業。
→定置網漁業等の漁獲高の増加

②加工品製造、販売体制の整備強化(カタクチイワシ製品開発)

- 加工・鮮魚処理施設、機器等整備。イワシ製品開発、販路・販売量拡大。鮮魚直送便（定置網の多種少量魚利用）の販路開拓 →売上高の増加

③漁師体験プログラムの拡充(観光協会等との連携)

- 漁師体験プログラム拡充（対象者拡大、調理体験等導入）。
- 漁業実地研修継続（東京海洋大学の学生受入）。
- 体験者数、プログラム収入増加(60人⇒100人)

④雇用の確保と労働環境の改善

- 新規就業者支援制度の活用、外国人技能実習生の受入。
- 従業員の給与水準向上、魅力的な職場環境等の提供。
- 正規雇用者数の増加(6人⇒10人)

※②で県支援事業を活用予定。

地域を牽引する ビジネスモデルへ

- 収益性の向上
- 安定した経営体制の確立
- 雇用の確保と労働環境改善



KPI (重要成果指標)

	基準年 (直近3年平均)	H33 (目標年)
○付加生産額 (営業利益・人件費・減価償却費)	35,265千円	→ 49,493千円
○正規雇用者数	6人	→ 10人

お問い合わせ先

総合的なお問い合わせ

長崎県 水産部 水産経営課 経営金融班
〒850-8570 長崎県長崎市尾上町3-1
電話：095-895-2833
ファックス：095-895-2583
E-mail：s06340@pref.nagasaki.lg.jp

各水産業普及指導センター

県央水産業普及指導センター
〒851-2213 長崎市多以良町1551-4
電話：095-850-6371

県南水産業普及指導センター
〒855-0043 島原市新田町347-9
電話：0957-64-0487

県北水産業普及指導センター
〒857-0043 佐世保市天満町1-27
電話：0956-25-5902

五島水産業普及指導センター
〒853-8502 五島市福江町7-1
電話：0959-72-2254

上五島水産業普及指導センター
〒857-4495 南松浦郡新上五島町青方郷1585-1
電話：0959-52-3747

壱岐水産業普及指導センター
〒811-5215 壱岐市石田町石田西触1290
電話：0920-48-5212

対馬水産業普及指導センター
〒817-8520 対馬市巖原町宮谷224
電話：0920-52-0058